

# 平成29年度 みやぎ小・中学生 いじめ問題を考えるフォーラム



各学校で取り組んでいる「いじめ問題」について、今年度は県内各地の小学生が集い、学校の枠を超えて話し合い、その根絶のために自分たちができることを考える「みやぎ小・中学生いじめ問題を考えるフォーラム」を開催しました。

平成24年度に始まり、6回目となった今回は、国立、私立を含む県内各地72の小学校から、144名の児童と各地区のPTAの保護者が参加して、いじめ防止の具体策について話し合いました。まとめとして、いじめを未然に防ぐためのアイデアを行動宣言という形にまとめて発表しました。

- 日 時 平成29年8月10日(木) 9:45～15:20
- 場 所 県庁2階講堂
- 参加者 県内国・公・私立小学校児童144名(仙台市を除く)、引率教員等72名、PTA保護者25名、一般参観22名
- 講 師 ファシリテーター:県内在住の大学生・大学院生35名(指導:ALL東北教育フェスタ実行委員)
- 共 催 宮城県PTA連合会
- 内 容(概要)

## (1)開会行事

### ① 挨拶(高橋教育長)

高橋仁県教育長が「いじめを生まない学校をつくっていくためには何をすべきかを話し合い、行動宣言としてまとめてほしいと思っています。それを各学校に持ち帰り、皆さんがリーダーとなって実行し、仲間と共に手を取り合って、いじめゼロを目指してほしいと思います。」と挨拶しました。



### ② メッセージ(教育委員会より)

伊藤均教育長職務代行委員が「私たちは、皆さん一人一人がかげがえのない命を大切にし、自分らしく生きていけるよう願っています。」と、教育委員会から県内の小・中学生に向けたメッセージを読み上げました。

加えて県内の全ての大人の皆さんに向けて「いじめをなくすために、家庭・地域・学校が力を合わせることから実行していきましょう。」とメッセージを読み上げました。



## (2)いじめ問題を考えるワークショップ



### <みやぎアドベンチャープログラムによるアイスブレイク>

はじめに、「みやぎアドベンチャープログラム」を活用してアイスブレイクを行いました。子供たちの緊張を解くために、みんなで触れ合うアクティビティを実施しました。これにより、初めて会った仲間とうち解けることができ、話し合いの準備が整いました。



### <ワークショップ1～その1:カードを活用したアクティビティ>

まず、5枚のカードから自分が「言われてうれしい言葉」と「言われて嫌な言葉」を選び、その理由を話し合いました。

「まじめだね」「一生懸命だね」「おとなしいね」「個性的だね」「マイペースだね」という普段よく使われる言葉のカードから選びました。同じ言葉でも言われてうれしい人と嫌な人がいて、人によって言葉から受ける印象が違っていることや無意識に相手を傷付けている場合があることを学びました。



### <ワークショップ1～その2:各学校の取組の発表>

次に、事前に作成してきたいじめ問題への学校の取組を書いたポスターに基づいて、発表し合い、自校でも実施してみたい取組などについて情報交換を行いましたが出来ました。各学校の児童会が作成したポスターは、どれもよく工夫してまとめられていました。



### <ワークショップ1～その3:事例を通していじめの定義を学ぶ>

いじめの事例が提示され、「その出来事は、いじめかいじめでないか?」「なぜそう思ったのか?」を一人一人考え、みんなで発表し合いました。話し合いを進めながら、「いじめられている人が嫌な気持ちになれば、いじめになる。」ということ、「いじめは、いじめられる側に立って考える。」という、いじめ問題を考える上で大切なことをみんなで確認し合いました。



### <ワークショップ2～いじめの傍観者について考える>

始めに、教室の中でいじめが行われている絵が提示され、いじめられている子を見付けたり、その子はどんな気持ちかを話し合ったりしました。そして、ただ見ているだけの子について、「何もやっていないから悪くないのだろうか」ということについて話し合いをしました。その中で、「いじめられている人をただ見ているだけの子(傍観者)」について、どうすればいいのか、話し合いながら、いじめを防ぐための取組を考えていきました。





### <ワークショップ3～その1:いじめを未然に防ぐための行動宣言文の作成>

後半は、これまでの話し合いを生かして、「いじめをただ見ている人(傍観者)にならないためにできることは何か」について話し合いました。自分の周りでいじめが起きてしまったら、自分だったらどんなことを心掛けたいかを考えて発表しました。この話し合いがまとまったところで、教育委員さんのメッセージや、話し合ってきた「いじめを見ているだけの人にならないように何ができるか」などを踏まえながら、いじめを未然に防ぐための宣言文を考えました。短い時間で宣言文にまとめる作業はなかなか難しいものですが、ファシリテーターのリードで上手に分担しながら、あるグループは黙々と、あるグループは活発に作業を進めていました。考え出したアイデアを「〇〇宣言」として、取組のポイント簡潔にまとめ、とても分かりやすい発表資料になりました。



### <ワークショップ3～その2:PTAの保護者のお話>

最後は、各グループのワークショップに参加していただいた、PTAの保護者の方から話し合ったことについての意見や感想をいただきました。



#### 【感想】

- ・ いじめは絶対にダメだということを、いじめられている人の気持ちになって考えることができました。
- ・ いじめは何かがあっても絶対にしてはいけないことだと分かりました。
- ・ いろいろな学校の人意見が聞けました。みんな本音で話をしていたので深く考えられました。
- ・ 人それぞれ考え方や感じ方が違うということ、そして同じ言葉でも嫌だと思う人と大丈夫な人がいることが分かりました。
- ・ 班の友達とたくさんの意見を出し合い、良い宣言が作れたし、自分の学校がこうなってほしいという思いで深く考えることができました。
- ・ みんなと宣言文を書く時に、意見を深く考える事ができました。
- ・ いろいろな人の気持ちを考えることができたし、グループで考え発表することができました。
- ・ 他の人の考えを認め合えたし、いじめについてよく討論できました。

### (3)各グループの宣言文発表

各グループ1分程度という短い時間でしたが、全てのグループが、話し合いの成果を堂々と「行動宣言」として発表しました。「1日1回クラス全員に話し掛ける。」「グループ活動や休み時間などみんなと過ごす時に1人の子がいたら話し掛けたり、遊びに誘ったりする。」「心配言葉・応援言葉を使おう。」「ちくちく言葉を使わない。」など、小学生らしいユニークなアイデアやいじめなくしていこうとする意欲にあふれる取組がたくさん紹介されました。



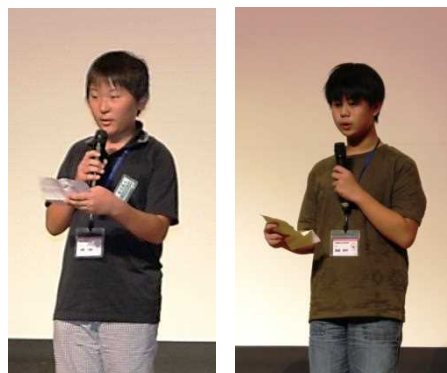
#### (4)閉会行事

##### ① 児童感想発表

(大河原町立金ヶ瀬小学校 6年 渡邊琳平 さん)

(登米市立加賀野小学校 6年 日野太智 さん)

参加児童を代表して、大河原町立金ヶ瀬小学校6年の渡邊琳平さんと登米市立加賀野小学校6年の日野太智さんが感想発表を行いました。話し合ったことをこれからの学校生活に生かしていきたいという強い決意を語っていました。



##### ② 先輩からのビデオメッセージ

宮城県にゆかりのある著名人として、俳優の千葉雄大さん、バドミントン選手の高橋礼華さんと松友美佐紀さんからいただいた、いじめ根絶に向けたビデオメッセージを上映しました。千葉さんからは、人それぞれの個性を良さとして認め合っていこうという話をいただきました。

金メダリストの高松ペアからは、ペアで支え合うからいじめはないという、普段のプレーで心掛けていることを話していただきました。



(俳優 千葉雄大 さん) (バドミントン選手 高橋礼華さん 松友美佐紀さん)

##### 【感想】

- 先輩からのメッセージを聞いてぼくも先輩たちのようになりたいと思いました。
- 千葉雄大さん 子どもの頃は前に出るのが苦手だったんだと初めて知りました。あの時こうすれば良かったということのないようにしたいです。松友美佐紀さん・高橋礼華さん、とても深いメッセージをありがとうございます。「いつも心に金メダルを！」が印象に残りました。
- ぼくたちにわざわざメッセージを送っていただきありがとうございます。ぼくたちはいじめがなくなるように努力するので期待してください。

##### ③ 講評(奥山義務教育課長)

フォーラムの締めくくりとして、義務教育課長が全体講評を行いました。講評の中で、小学生の話合いの素晴らしかったことや、たった一言で人を幸せにも不幸にもしてしまう「1秒言葉」があるという話がありました。ここで、各グループの発表をまとめて、「みやぎっ子宣言」としてまとめることを約束しました。最後に、フォーラムを通して感じたことを学校に戻って全校児童に伝えてほしいと締めくくりました。

